

国家戦略の実行メカニズムの改善に向けた提言

(財)日本自然保護協会
保護研究部 主任 大野 正人

<視 点 ～第3次国家戦略がどうあるべきか～>

1. 農林水産・国土開発・経済政策などに「生物多様性の保全」を盛り込ませる
「統合（インテグレート）型国家戦略」になりえるか
2. 「国際的な評価に応えうる国家戦略」 2010年目標にどこまで応えられるか

<提 言 1. 「アクションプラン」を位置づける>

- 状況：・日本各地に生き残る「20世紀型開発事業」
・「環境配慮型」の下で行われるおかしな事業
- 原因：・生物多様性保全への取り組み・内容が不明確
・国家戦略や生物多様性保全の意味が各省庁に根付いていない

提言1：国家戦略に「アクションプラン（省庁連携型・地域型）」を位置づける

条件：生物多様性を踏まえた目標、計画年度の設定、責任主体の明確化、
努力と変化を図る指標の設定、予算の割り当て

<海外の事例> フランス、イギリスにおけるアクションプラン

<NACS-Jの取組事例>

森林生態系では東日本（AKAYAプロジェクト）と西日本（綾プロジェクト）で総合環境管理・
共同管理のモデル事例に關与。

<提 言 2. 「目標・指標の設定」と「評価システム」の導入>

- 状況：・絶滅危惧種の状況は悪化している
・侵略的外来生物の状況も好転していない
- 原因：・生物多様性の状況や保全策の効果・進捗状況を検証していない
・市民や研究者との国家戦略の共同・関与が希薄

提言2：国家戦略に「目標・指標の設定」と「評価システム」を導入する

- ① 国家戦略全体のための第三者的な科学委員
会を設置し、目標・指標・評価を組み入れる
- ② 市民参加型のモニタリングシステムの充実
- ③ 広く共有できる「情報共有システム」の構築（インターネット、GISの活用）

海外の事例：EU、ベルギーフランドル地方の事例、IUCNレッドリストインディケーター
<NACS-Jの取組事例>

日々観察する何か、インデックス化されている状況をつくれば、市民の担い手はある
指導員約22,000人のネットワーク、全国一斉しぜん調べ（カメ）
市民参加型モニタリング手法の開発（モニタリング1000、海岸植物群落）

以上